

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	麻布大学(仮称)新5号館	階数	地上2F
建設地	相模原市中央区淵野辺1-133-12外	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	100 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	1,600 時間/年
建物用途	学校、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年6月 予定	評価の実施日	2014年6月20日
敷地面積	4,010 m ²	作成者	戸田建設株式会社
建築面積	2,177 m ²	確認日	2014年6月23日
延床面積	3,199 m ²	確認者	戸田建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 参照値: 100%
 建築物の取組み: 83%
 上記+: 83%
 上記+: 83%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 動物実習室等の実験室や、講義室等からなる建築であり、特に実験室等では、内部の衛生環境の維持が重要である。 実験室の床面には排水溝を設け、水を使用して洗浄可能とした。 また、節水コマの導入や井水利用等により、環境負荷の低減に配慮した。		建設工事における廃棄物低減を図り、ゼロエミッションを目指す。
Q1 室内環境 建物内は全館禁煙とすることで、クリーンな空気室環境の維持に努めた。	Q2 サービス性能 耐震性の向上や、水害に配慮し受変電設備を屋上に設置するなど、災害に配慮した設計とし、また、節水型器具の採用や井水利用を可能にし、耐用性・信頼性に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 外装・屋根等の形状や色彩において、周辺建物や風景にバランスよく調和するよう配慮した。
LR1 エネルギー ERR値は31.7%であり、建物の熱負荷低減に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に節水コマを導入し、水資源の保護に配慮した。	LR3 敷地外環境 建物利用者の為の適切な量の自転車置き場・駐車スペース・荷置き用車両スペースを確保し、交通負荷の抑制に配慮した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 'ライフサイクルCO₂'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される